

# ハワイにおける Peace builder（平和の創造者） の育成と平和活動

ハワイ大学 マノア校 マツナガ平和研究所 Jose Barzola

## 1. はじめに

本日、私がお話しするのは、Peace building（平和を築く）についてです。ピースという言葉はよく使われます。しかし、平和というものを築く、創っていくという、このプロセスはあるものではなくて、自分たちが作っていくんだというプロセスがどう出来るかを考えるとき、私から先にお答えを申し上げますと、それはやはりコミュニケーションであり、ネットワーク、そういった人々とのつながりからピースがつくられていくということです。そういうことをつくれる人材を育成するというのが、我々のメインのミッションとして進めていることです。そのことを本日はご説明したいと思います。

## 2. スパーク・マツナガ氏と平和教育の立ち上げ

マツナガ平和研究所の名前をいただいたスパーク・マツナガさんは、日系二世のアメリカ人でした。パールハーバーへの攻撃のあと、日系アメリカ人は強制収容され、そのあと多くの日系二世が自ら志願して、アメリカ兵としてヨーロッパ戦線で戦い、ナチスドイツとの壮絶な戦いの中で多くの方が命を落としたことはご存知だと思います。マツナガさんはその戦いに出て、負傷して帰ってきました。そのあとアメリカの上院議員としても大活躍され、ハワイでは誰もが知る日系人として平和に関与した方です。

マツナガさんが19歳のとき、Peace Institute で書いた文章がすべての軸になります。「もし平和を築くのであれば、平和を求める人間を育成しなければいけない」。それがすべての基になっております。大戦のあと、アメリカに戻られたマツナガさんは、ご自身の経験から戦争の悲惨さを全米の方々が学ぶことの大切さを説き、平和研究所の創設に尽力されました。1984年にはワシントン DC に平和研究所を創設され、そのミッションは、全米の大学に平和学習、平和教育を学ぶ学部や施設を作ることを目的として、活動されました。

彼の10年以上にわたる、平和研究所を全米に広げて、二度と戦争のない世界を作りたいという気持ちは、彼自身が広げていったコミュニケーション、ネットワーク、彼自身のつながりというところから、彼自身の行動そのものが Peace builder（平和の創造者）であるという定義付けを周囲から貰うほどの厚い信頼を得ました。そして、今、私が勤めておりますハワイ大学マノア校マツナガ平和研究所の創設につながります。

### 3. ハワイ大学マノア校マツナガ平和研究所

私たちの平和研究所は高等教育機関の一環として、学部、大学院生を対象とした平和と紛争解決に関する実践的なプログラムを提供しています。こうしたプログラムには、修了証を与えられるサティフィケートプログラムなどもあります。そういったものを提供しながら、高等教育機関といえども、地域や地域で学ばれている若い方々との交流、そして世界的な交流を広げることを目的としています。今回、そういった活動の一環として、パールハーバー、HIKI とつながり、この場に立たせていただき、長崎大学の皆さまとお会いすることができているということです。ありがとうございます。

### 4. 各種団体での活動

高等教育機関に属する平和研究所として、研究者、大学生、大学院生のためだけに存在するのではなく、地域コミュニティのために存在するというミッションを持った創設者の教授2人が Seeds of Peace（平和の種）という名前の NPO 団体を立ち上げました。私は、そこでもディレクターをやらせていただいています。ここでは、マツナガ平和研究所で蓄積されたさまざまなノウハウ、さまざまな知識を活かし、地元の若者や子どもたちが草の根から、自分たちで種から芽を出すように平和の芽を育ててもらうための教育プログラムを提供しています。

Seeds of Peace のコンセプトは、シンプルに三つです。まずは「Peace with self」。自分の中の平和、自分の中の平和をまず定義する。自分自身をコントロール、理解するということです。次、「他者との平和」。これは他者、目の前にいる相手との紛争解決。何かトラブルが発生しそうな場合に、それをどう回避するか。そういったスキルも含めたうえでの他者との平和。そして最後が「コミュニティの平和」。これは自分が存在している社会、

地域の中で、平和を維持するストラクチャーをどうやって作り上げていくか。これらをステップ1、2、3でプログラムとして展開しています。Seeds of Peaceのオンライン、ホームページに訪問していただければ、われわれが提供しているコンテンツの中身を皆さんも見えていただいて、ダウンロードしていただくこともできます。一つ一つのホームページ上の芽がそれぞれのプログラムになっていて、そこをクリックすることでわれわれのコンテンツを使って、皆さんのコミュニティや地元で、何かに活用していただければとても嬉しいです。そういった活動の中から、それぞれの地域で若者たちが立ち上げるプロジェクトも、われわれはサポートしています。

その一つが、こちらにある Youth on Track、直訳すると若者の反論ですが、反論というよりは若者の声を中心とした活動グループで、自分たちの地元にある本当に小さな課題、問題に立ち向かっています。例えば雨が多く降った日に、水路に泥が詰まってしまって水が路上に溢れてしまう。そのようなときには、水路の泥を誰がどのペースで掻き出していったらいいのか、もしくはそれを地域の自治体に申し出て、そこに泥が詰まらないように変更してもらおうというプロセスを、大人がこうやったらいいよと教えるのではなく、高校生たち、若者たちが自分で調べて行動します。第一歩をどこに聞きに行って、どこにアプローチして、どうすることで地元の小さい問題を解決するのか。その第一歩から自分たちでもできるのだということにフォーカスを置き、活動グループを支援しています。

私は、たくさんのNPO団体にも属して活動を支援していますが、もう一つ「気候変動と平和」というグループにも属して活動しています。ご存知のとおりハワイは太平洋のど真ん中、少しの気候変動、少しの海水の上昇等でも大変大きな影響を受けます。平和というものと地球全体の環境、気候が密接につながっているということ意識した、とてもしっかりとフォーカスを絞って活動をしている団体です。

気候変動、そして人間の活動が気候変動にどのような影響を与えているかは、昨今のさまざまなディベートで右も左もいろいろな意見があります。われわれは、その活動をハワイで進めています。気候変動と平和、環境と平和という観点から、もし興味がある方はぜひホームページを訪問し、メールを送っていただければ、いつでも私がお話をさせていただきたいと思います。

最後に、課題解決協会という団体でも活動しています。これは人と人との間に摩擦が発生したときに、平和を創造する人間として、そこにどう関与するのか。どのように人と人との摩擦をマネジメントしていくのか。そういったことを若者と大人、シニアの方々も含

めて、これまでの人間の英知を集約して紛争解決、人と人とのぶつかり合いを自分の目の前にある、例えば自分のクラスの中にある、自分の地域の中にあるところから解決しているという活動を支援しています。これもまた grass roots (グラスルーツ) の活動になっています。

本日、大きく四つの私たちの取り組みをご紹介いたしました。駆け足になりましたが、ご興味がある方、何か質問がある方は、このあと我々はまだおりますので、ぜひお声掛けください。ご清聴ありがとうございました。